

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

日本教育工学会 第21回全国大会のお知らせ

(最終報)

日本教育工学会第21回全国大会 (<http://jset2005.is.tokushima-u.ac.jp/>) を、下記のように徳島大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

1. 開催期日・会場

期日：2005年9月23日(金)～25日(日)(3日間)

会場：徳島大学工学部(常三島キャンパス)

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 (JR徳島駅より徒歩15分, 徳島空港よりバス30分)

<http://www.tokushima-u.ac.jp/>

2. 大会日程

第1日 9月23日(金)	第2日 9月24日(土)	第3日 9月25日(日)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～11:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食	12:30～13:30 昼食・理事会	11:30～13:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	13:30～14:00 論文投稿者・査読者・ 編集委員との懇談会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	13:00～15:30 課題研究発表
	14:30～17:00 シンポジウム2	
	17:00～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

* プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示は、大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の論文投稿者・査読者・編集委員との懇談会は希望者のみの任意参加です。

本号目次

第21回全国大会のお知らせ(最終報) -----	1	研究会の発表募集/報告 -----	10
論文特集号のお知らせ(第一報) -----	3	第21回通常総会議事録 -----	11
秋の合宿研究会のお知らせ(最終報) -----	4	担当委員名簿 -----	12
秋の産学協同セミナーのお知らせ(最終報) -----	6	第10期第17回, 第11期第1回, 第2回理事会議事録 --	14
2005年度シンポジウムのご報告 -----	7	新入会員/学会日誌等 -----	16

3. 各セッションについて

詳しくは、本号に同封されている「大会プログラム」をご覧ください。

(1) シンポジウム

シンポジウム1

シンポジウム1A 教育・学習環境における「ユビキタス」とは？

シンポジウム1B 学力向上をめざした授業実践

シンポジウム2 学力向上と教育工学

(2) 課題研究発表

K-1 デジタルコンテンツ活用実践の評価

K-2 小中高における情報教育の指導内容と系統性の再構築

K-3 教師のICT活用指導力の育成 - その実際、成果と課題 -

K-4 高等教育におけるe-Learningの展開とその評価

K-5 ユビキタス技術の教育利用

K-6 教育分野における先端技術の活用

K-7 教育を支援する機器・ソフトウェア等の商品の企画・開発の意図とその成果

(3) 一般研究発表

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 I(情報活用能力の育成等) (3)情報教育 II(教科指導等) (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護・福祉教育 (9)幼児教育 (10)教育評価・データ解析 (11)授業研究 (12)授業設計・実践 (13)高等教育における教育方法 (14)教育ソフトウェア開発・評価 (15)学習コンテンツ開発・評価 (16)遠隔教育・遠隔学習 (17)認知モデルと知的学習支援システム (18)インターネットを利用した授業実践 (19)教育メディア (20)e-Learning(システム) (21)e-Learning(運用・評価) (22)協調学習と協調作業

(4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。奮ってご参加ください。

発表時間について

発表時間は以下のとおりです。

[課題研究発表] 課題研究発表の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究発表] 発表15分 質疑応答5分 [English Session] 発表15分 質疑応答5分

4. 会場の設備について

すべての会場に、プロジェクタ、OHPを準備いたします。各会場に発表用パソコンは用意いたしません、パソコンは各自でご持参下さい。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

5. 大会への参加申し込み

既に事前申し込みは終了しました。今後の参加申し込みは、大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 当日 4,000円(一般) 3,000円(本学会学生会員)

論文集代 当日 5,500円 懇親会費 当日 6,000円

論文集送料 800円(参加しない場合)

6. 問い合わせ先

大会全般に関しては、jet2005@mr.hum.titech.ac.jpに、お問い合わせください。

日本教育工学会論文誌

特集号「情報教育の成果と課題」のご案内（第一報）

本学会では、文部科学省が「情報教育」を教育内容として整理する以前から、様々な場面で情報に関わる教育実践について、その内容論や方法論を取り上げ、着実な研究成果をあげてきました。また、初等中等教育における「情報教育」の骨格が固まった今日においても、新たな課題が日々生まれ続けており、新しい試みにも無関心ではられません。たとえば、社会の情報通信環境の急速な進展に対して情報教育を陳腐化させないためにはどうしたらよいのか。また、教育の情報化政策によって拡充されてきた学校における情報通信環境を生かした授業実践はどうあるべきなのか。さらには、初等中等教育において累積される学習成果を受けて、高等教育や生涯教育における情報教育はどのように変化させたらよいのか。市民教育としての情報教育と高度な専門職の養成とをどのように切り分け、また統合したらよいのか。新たな課題が山積しています。

そこで、日本教育工学会では、情報教育について、今後の普及・進展のために必要な研究を幅広く扱った特集号を企画し、下記要領により論文を募集することにしました。対象は初等・中等教育、高等教育、生涯教育・企業内教育など、幅広くとらえております。これらの分野で研究や教育実践をしておられる会員各位にはふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

1. 対象分野

- ・情報教育の発展状況に関する調査研究・事例研究
- ・既存の情報教育の問題点を解決するための開発研究
- ・情報教育に関するカリキュラム研究・理論研究
- ・情報教育の評価手法に関する研究
- ・内外の情報教育の政策・制度・組織に関する研究
- ・新しい情報技術・情報環境を扱った情報教育の試行的研究
- ・情報教育と能力測定、入学試験について
- ・情報教育の教材・コンテンツの作成技法
- ・企業における人材育成と情報教育
- ・その他の情報教育に関するあらゆる研究

2. 募集論文の種類

通常の論文誌同様に、論文、資料、寄書を募集します。投稿規程ならびに査読は、通常の論文誌の場合と同じです。なお、ショートレターとして既に掲載されている内容あるいは研究会や全国大会で発表された内容を発展させ、論文として投稿することも可能です。

3. 論文投稿締切日

2006年2月6日（月）（2006年12月発行予定）

4. 論文送付先及び問い合わせ先

原稿は、この「原稿執筆の手引」（<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>）に従って執筆し、編集委員会事務局へ送付してください。電子投稿することもできます。

【問合せ先】日本教育工学会 編集委員会事務局（<http://www.jset.gr.jp/>）

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-13-7 マルキビル

Tel/Fax : 03-5740-9505 電子メール : jet-editor@japet.or.jp

5. 特集号担当編集委員会

本特集号では、特集号担当編集委員会を組織し、より広い範囲で「情報教育の成果と課題」についての論文を募集したいと考えております。多数のご応募をお待ちしております。

編集委員長：鈴木克明（岩手県立大学）

副編集委員長：松居辰則（早稲田大学）

委員：赤倉貴子（東京理科大学）

近藤 勲（岡山大学）

西野和典（九州工業大学）

宮田 仁（滋賀大学）

伊藤紘二（東京理科大学）

正司和彦（兵庫教育大学）

東原義訓（信州大学）

室田真男（東京工業大学）

木原俊行（大阪市立大学）

永野和男（聖心女子大学）

平嶋 宗（広島大学）

渡辺博芳（帝京大学）

2005年度秋の合宿研究会のご案内（最終報）

テーマ 「学力向上のために授業改善をどう進めるか」

「学力向上」という視点から、日々の授業実践を振り返り、明日からの授業改善に向けて学ぶためのワークショップ型合宿研究会です。学力とは何か、学力向上のための授業やカリキュラムはどうあるべきかについて問い直し、授業研究を行なうワークショップに時間をかけて取り組み、その方法論についても学びます。

会場は、白浜温泉の近く、新しくできた和歌山県立情報交流センターBig-Uです。

多くの実践者、研究者の方々にご参加いただき、参加者相互で刺激しあって明日のより良い授業を考えましょう。プログラムの概要は次のとおりです。

（今後、変更があり得ることをご承知ください。）

日時：10月15日（土）13：00 - 16日（日）12：00

会場：和歌山県立情報交流センターBig-U <http://www.big-u.jp/>

〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町 3353-9 Tel.0739-26-4111

遠来の方につきましては、地元有志により、南紀白浜空港および白浜駅と会場間を送迎する予定です。また、会場と宿泊場所の間の送迎も行います。送迎の詳細につきましては、事前に電子メールでご案内します。

宿泊場所：白浜温泉 湯処むろべ（教育互助会の宿） <http://www.cypress.ne.jp/murobe/>

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 1997 Tel.0739-42-3300

参加費等：参加費1000円、宿泊費6700円、懇親会費6300円

学校教職員の方は共済組合、互助会の補助が利用可能とのことです。都道府県によって、補助・申請の仕方が異なるようです。お手数ですが、勤務されている学校の事務担当の方に申請方法をお問合せ下さい。

定員：80名（宿泊定員40名程度）

参加申込は定員になり次第締め切らせていただきます。

宿泊参加のお申し込みは、9月20日（火）までにお願い致します。

10月15日（土）

<受付 12:45-13:00>

<オリエンテーション 13:00-13:10>

<基調講演&ワークショップ 13:10-14:30>

「ワークショップ研修の考え方と『真の学力』明確化・具現化ワークショップ」

村川雅弘（鳴門教育大学）

ワークショップ研修の考え方や進め方について簡単にお話しした後に、実際にワークショップを体験してもらいます。その時の課題は「私たちがこれからの子どもたちに求める学力を具体的に考えよう！」とします。PISA 調査なども踏まえて、5 - 6人程度のチームに分かれて「はぐくみたい力」と「そのための具体的な手だて」について整理、発表、情報交換を行います。次につづく3つの授業研究ワークショップにつながればと考えます。

<休憩 14:30-14:40>

<授業研究のワークショップ 14:40-16:50> 　　いずれかを選んでご参加ください。

(1) ワークショップ型授業分析による子どもの「学び」の追究

村川雅弘(鳴門教育大学)、山中昭岳(熊野川町立熊野川小学校)

本ワークショップでは和歌山県の熊野川小学校の山中昭岳先生の総合的な学習の実践(環境教育)を採り上げ、その様子を録画したものをワークショップ型授業分析により検討します。

(2) 「授業力」の自己点検・評価

木原俊行(大阪市立大学)、桑木義典(御坊市立藤田小学校)

このワークショップでは、学力向上を視点として、参加者に、自らの授業実践を様々な角度から、点検・評価してもらいます。

まず、小学校算数の授業実践事例から、子どもたちの学力向上に資する、教師の「授業力」を洗い出します。また、それを踏まえながら、参加者個々に、自らの「授業力」を点検してもらいます。

さらに、全国各地の学力向上を目指した実践事例を参照しながら、少人数指導等の「学校の教育力」についても、所属校のものを総点検してもらいます。

ワークショップの最後には、参加者は、上記の点検作業を踏まえた、学力向上アクションプランを策定し、それを、相互評価によって精錬させます。

(3) ウェブ・ティーチング・ポートフォリオ

永田智子(兵庫教育大学)

参加者自身の実践を振り返るためのウェブ・ティーチング・ポートフォリオをつくります。考えてみたい自分の実践の指導案・児童生徒の学習物などをデジタルデータでご用意ください。

<移動、休憩 17:00-18:00>

<夕食、懇親会 18:00-20:00>

<ナイトセッション 20:30-22:00>

「教育現場の悩みと、その原因および解決策についてのワークショップ」

長谷川元洋(金城学院大学)、高橋純(富山大学)、豊田充崇(和歌山大学)

ナイトセッションでも、ワークショップを行う予定です。お互いに各教育現場で抱えている悩みを出し合い、その原因は何か?、どうすれば解決できるのか?をワークショップ形式で、検討します。

10月16日(日)

<朝食 7:00-8:00>

<移動 8:30-9:00>

<ワークショップ解説とディスカッション 9:00-10:40>

村川雅弘(鳴門教育大学)、木原俊行(大阪市立大学)、永田智子(兵庫教育大学)

コーディネータ:南部昌敏(上越教育大学)

前日のワークショップについて、内容、方法について解説し、授業研究のワークショップの在り方について検討します。

<休憩 10:40-10:50>

<特別講演「本当の学力を伸ばす授業」 10:50-12:00>

佐伯 胖(青山学院大学)

本当の学力を伸ばすこれからの授業の在り方についてご講演いただきます。

申し込み:下記のページからお願いします。こちらに最新情報を掲載しております。

http://center.edu.wakayama-u.ac.jp/jset_aki/

問い合わせ先:野中陽一(和歌山大学) nonaka@center.wakayama-u.ac.jp

秋の産学協同セミナー 開催案内

フロア参加型ワークショップ研究会

～普通教室におけるパソコン活用のための『ヒト・コト・モノ』をデザインしよう～

日時および会場

日 時 : 2005年11月25日(金) 13:30～17:00

会 場 : ジャストシステム東京支社7F「カンファレンスルーム」

〒107-8640 東京都港区北青山1-2-3 青山ビルディング TEL: 03-5412-3900

<http://www.justsystem.co.jp/just/map/tokyo.html>

アクセス : 地下鉄銀座線・半蔵門線・大江戸線「青山一丁目」駅下車すぐ

(出口[0番]か[1番]をご利用下さい)

背景とねらい

普通教室におけるパソコン活用に焦点をあて、そのためのデザイン方略について、ハード環境、教育ソフト等のツール、カリキュラム、研修・支援体制等を含む広い視点から考える。

e-Japan 重点計画では、2005年度末までに全ての普通教室へパソコン2台を設置し校内LANに接続してインターネットが利用できることを目標としている。計画ではわずか2台の導入であるが、今後、パソコン教室ではなく普通教室においてコンピュータをどのように活用するかが教育システム研究の重要なテーマになると思われる。この普通教室のパソコンのための教育ソフトへの需要には、教育ソフト業界も注目してきた。そのため、近年、普通教室での利用を前提とした教育ソフトも開発されているが、普通教室での利用に関するノウハウの蓄積は、教育ソフト業界においても教育現場においても未だ不十分である。

そこで、この研究会では、普通教室におけるパソコン利用を促進するためには、どのようなハード環境、教育ソフト等のアプリケーションソフト、カリキュラム、研修・支援体制が必要となるのかを、普通教室でのパソコン利用の具体例(システムデモンストレーションや実践報告)をもとに考える。

なお、この研究会は、ハードやソフトの開発者および利用者、多様な分野の研究者が専門性やアイデア、経験を持ち寄って参加するワークショップ形式で運営する。様々なバックグラウンドをもつ参加者らの議論・対話をとおして、あらたなアイデアを創発するとともに、参加者それぞれが、自身の抱える課題について何らかのヒントを掴み取ることを目指す。このワークショップを通して、企業と学校、そして研究機関との新しい関係性が築かれることを期待しています。

<セミナーのタイムスケジュール>

13:30～13:40 : セミナーの趣旨・進め方の説明

13:40～14:30 : 現状把握・情報共有のためのミニシンポ(登壇者は交渉中)

システムデモンストレーションや実践報告を予定

14:40～16:00 : 課題別ワークショップ

ハード環境、教育ソフト等のツール、カリキュラム、研修・支援体制等について、開発者や教師、研究者等による混合グループで、戦略を練り整理する

16:10～16:50 : グループ発表による共有化と関連化(コメンテーターについては交渉中)

詳細については、学会ホームページに掲載します。

日本教育工学会 2005 年度シンポジウム

美馬のゆり（日本科学未来館：企画委員会副委員長）
香山 瑞恵（専修大学：企画委員会委員）

日本教育工学会 2005 年度シンポジウムは、本学会企画委員会の企画により、2005 年 6 月 18 日（土）東京工業大学 西 9 号館 デジタル多目的ホールで行われました。参加者は、大学関係者、小中高の教員、企業関係者などほぼ同数で、合計 131 名でした。

午前中のシンポジウム 1 は、主として学会員を対象とし、「企業内教育における e-Learning の展開・学校教育への示唆、何がどう違うか」と題して行われました。学会総会と昼食をはさみ、午後はシンポジウム 2 を公開シンポジウムとして、会員及び一般参加者向けに「ワークショップの意義と課題・教育工学からのアプローチ」が開催されました。

シンポジウム 1

「企業内教育における e-Learning の展開・学校教育への示唆、何がどう違うか」

シンポジウム 1 では、近年様々な教育・研修機関で導入が進んでいる e-Learning に関して、情報通信基盤 / LMS などの各種ソフトウェア / コンテンツ開発体制、利用形態、コストをふまえた品質保証等の観点から総合的に討論し、そこから学校教育での導入・実施のための方法論、問題点を浮き彫りにすることを目的としました。まず、司会者の岡本敏雄氏（電気通信大学大学院）から e-Learning が学校教育に浸透する際のボトルネックやブレークスルー、e-Learning での学力保障や教師の役割、そして「学ぶ」という行為の再考などの問題が提起されました。これをふまえ、4 名の登壇者よりそれぞれの観点からのお話をいただきました。

第 1 登壇者として、徳永直助氏（日立電子サービス・教育統括本部）から「e-Learning 実施・運営の観点から」お話しいただきました。国内に 307 拠点を擁する自社教育体制を例として、コンテンツ開発の重要さと学習進捗管理および学習指針明示の必要性が説明されました。組織における教育 / 研修に対して e-Learning を導入する目的は教育 / 研修期間の短縮と効率化であるとして、現場にいながらにして学習機会を得られることの効果を、具体的な数値や体験談を交えつつ説明されました。特に、反復学習と学習の振り返りによる学習内容の定着、そして上長らのメンタリングによる“おちこぼし”回避の実績が示され、e-Learning は多様な場面で有効活用可能な教育ツールの 1 つであることが述べられました。



第 2 登壇者として、仲林清氏（NTT レゾナント・ポータル事業本部・ビジネスプラットフォーム事業本部・ラーニングポータル部門）から「e-Learning による研修企画開発の観点から」お話しいただきました。2 つの研修業務事例を取り上げつつ、e-Learning を効果的に展開するための要件の 1 つとして、組織に於けるコンピテンシ管理という観点からの顧客（教育をのぞむ側）との綿密な打ち合わせが不可欠であることが説明されました。1 つ目の事例は、新入社員技術教育の場面でした。数百名が一同に会す研修場に一人 1 台の PC を用いながら個別学習を進める様子が紹介されました。グループ学習で生じる free rider の存在をなくすために個別学習を取り入れたこと、そして各自の能力レベルにあった学習内容と進度を推奨したことが、結果として学習者の主体的な学習を可能とした事例でした。2 つ目の事例は、現場担当者のスキルレベルの均一化を目的とした毎朝行われる短時間訓練の場面でした。訓練内容が日々の業務内容に直結していること、新たな出来事が直ぐに訓練材料として取り入れられること

などの効果として、業務知識の体系化が図られ、さらには訓練者の間での仲間意識の強化にもつながったといえます。これらの事例の紹介を通して、e-Learning 導入は自律型人材の育成に効果的であると示されました。

第3登壇者として、伊藤健二氏（みずほ情報総研・情報・コミュニケーション部・知識戦略ソリューション室）より、「LMS、標準化技術の観点から」お話しいただきました。高等教育と企業内教育における e-Learning システム / コンテンツ利用の実態を、2005 年にメディア教育開発センターがまとめた「e-Learning に関する実態調査」の結果、2002-3 年度実施された先進学習基盤協議会(ALIC)での調査結果、そしてご自身がまとめられた独自のデータに基づいて説明されました。高等教育と企業組織における e-Learning 導入の加速化、外注 / 独自コンテンツ開発の費用対効果および品質保証の問題の顕在化を指摘しつつ、「e-Learning システム / コンテンツの外注化の比率」と「学内における e-Learning システム / コンテンツ仕様の標準化」との関係性をどのように考えていくかを意識することの重要性が示されました。

そして、第4登壇者として、植野真臣氏（長岡科学技術大学）より、「企業内 e-Learning における学習理論」に関するお話をいただきました。財としての知識を構築 / 定着させることの重要性和、その際に現実社会とのリンクが必要不可欠であることが指摘されました。教科の学習のみならず、社会に関わる人材としての指針を与えることも教師の役割であり、教師自身がそのような教授行為を行ってこそ、学校における e-Learning が効果を発揮することが述べられました。

4名の登壇者の話題提供を受け、指定討論者の香山およびフロアの参加者より、「e-Learning でまかなえる学習範囲」「集い合い学ぶことの効果」「教師の役割」「教師教育の在り方」といった議論がなされました。本シンポジウムの成果は以後の議論の先鞭をつけたところにあります。このテーマは、次世代の教育の在り方に関して教育工学会としての明確にビジョンを共有するために、今後も様々な場面において斬新で慎重かつ十分な議論がなされることと期待いたします。

シンポジウム 2

「ワークショップの意義と課題 - 教育工学からのアプローチ -」

シンポジウム 2 では、近年、博物館等の公共施設、学校、企業、地方自治体など、さまざまな場所でさまざまな機会に行われている「ワークショップ」について、その計画、実施、評価などに教育工学がどのように貢献できるのか、そこでの問題と課題は何か、その教育はどのように行われ得るのか、将来、どのように貢献を広げていけるのかなどについて検討しました。はじめに司会者である美馬から、本シンポジウムの意図を説明し、4名の登壇者にそれぞれの立場からワークショップについて具体的事例を元にお話しいただきました。

第1登壇者として同志社女子大学の上田信行氏から、「ワークショップを実践してきた立場から」お話しいただきました。上田氏は、30年前よりワークショップの実践を行っており、当時はこの方法が教育手法として、あるいは学習方法として認知されなかったことを、10年以上前の実践のビデオ映像とともに紹介されました。さらにワークショップにおける「作って、語って、振り返る」という一連の活動が、参加者にとって重要であること、またその背後には、ファシリテーション、ドキュメンテーション、リサーチが不可欠であるということをモデルとして示されました。



第2登壇者として、産業能率大学の永露陽子氏からは「企業におけるワークショップの立場から」発表いただきました。永露氏が関わっている企業内ワークショップでは、以下の3つの手法が期待されていることが紹介されました。従業員の団結や方針等の手法として、中核人材育成の場として、カウンセリングの場としての3つです。長期的、持続的に従業員を成

長ささせることについては、短期的な研修と比較すると、コストはかかるが従業員の意識向上につながることや、職場の雰囲気の変化に有効であるとの結果が示されました。

第3登壇者として、鳴門教育大学の村川雅弘氏は「教員向けのワークショップ研修を開発している立場から」の話でした。学校や教育センターなどの研修に、講義形式だけではなく、ワークショップ型を取りいれている事例です。これらのいくつかの実践事例から見えてきた基本原理は、「学校現場の日常の授業などに関する課題が持ち込まれる(具体性)」「その解決に向けて参加者が知恵を出し合い解決しようとする(問題解決性、協働性)」「その解決策を明日の実践に生かす(実現性)」「学びあいの文化が日常化する(OJT性)」であることが示されました。

最後の登壇者として、東京大学の山内祐平氏は「ワークショップの作り方を教える立場から」実践例を紹介されました。大学院の情報リテラシー論の授業の中で、大学院生が小中高、大学に出前授業を行うワークショップを行っているものです。情報を発する側と受け取る側の意識や手法を学び、情報に対する判断力(メディアリテラシー)を養っていくことが目的です。このワークショップの企画では、参加者にどのような活動をさせるのか、活動空間、その活動から生まれてくる共同体、そこで利用するツールについて、考えていくことが必要であるとの指摘がなされました。

これら4つの発表を元に、司会の美馬によって「ワークショップ」という学習形態についての整理がなされました。学習者の活動として、特徴が4つあるという点です。プレゼンテーション(書く、描く、身体で表す、発表する、作品を作る、語る)、コミュニケーション(対話する、聞き出す、議論する)、マネジメント(企画する、進行を管理する)、教育と学習(教える、学ぶ、探究する)です。

このあと、司会からフロアの聴講者に対して、隣人と自分の経験について語り合う時間を5分ほど設け、その結果を司会に指名され発表する場面もありました。そのような活動を経験した後、質疑応答も行われました。最終的には、教育工学からはその研究対象として、「ワークショップ」という学習スタイルへの貢献の可能性が示されました。どこで学習が生起しているのか、ファシリテーターの役割、カリキュラムのデザイン、ツールの利用、評価改善手法などです。これらの分析・考察が教育工学によってなされることにより、ワークショップをデザインする、評価改善する、学校教育へ応用するなどの可能性があることが明らかになりました。

今回のシンポジウムでは、午前のシンポジウムでe-Learning、午後のシンポジウムでワークショップという、従来の学校教育とは異なる新しい2つの学習スタイルに対して考える、好機会となりました。e-Learningでは、空間的、時間的に異なる所で、個別に、段階的、系統的に学びます。ワークショップでは、主に野外や公共施設で、プロジェクトを実施するという、具体的なテーマに協同的に参加する過程で学びます。従来の学校教育を中心と考えると、その両極にあるスタイルの学習の双方について、教育工学という研究領域が貢献でき、2つを包含した形で研究対象として扱えるのは教育工学しかないという点で、社会的にも使命があることが確認されたことは、今回の2つのワークショップの企画として、成功だったといえるでしょう。

シンポジウム終了後、参加者からも、登壇者からも、好意的な感想を数多くいただくことができました。また、このワークショップというスタイルを、秋の産学連携シンポジウムや、冬の合宿、春の合宿の様々な場面で取り入れていこうという動きも出てきました。このシンポジウムが、企画委員を含め、参加者のその後の行動に大きな影響を与えたことは間違いありません。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

研究会の発表募集



ICT活用と教育評価

日 時：2005年11月19日（土）

会 場：鳥取大学

開催担当：西田英樹（鳥取大学）

申込締切：2005年 9月19日（月）

原稿提出：2005年10月19日（水）

募集内容：

学校教育に限らずe-learningを利用した生涯教育などを含めて、ICTを内容とする授業やICTを利用した授業の評価、ICTを利用した評価の方法、など、ICTと教育評価に関する内容をテーマとした発表を幅広く募集いたします。

応募方法：

研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

申し込み締切：2005年 9月19日（月）

締切後、申し込まれた方宛に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします。

原稿提出期限：2005年10月19日（水）必着（厳守！）でお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお、PDF形式（サイズは1Mバイト未満）による提出も可能です。提出先は、学会本部事務局（jset-submit@nime.ac.jp）です。メールに添付して送ってください。

研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです。

2006年1月28日	学習理論と学習環境の拡張	大阪大学
2006年3月11日	教育の情報化～ポスト2005年を志向する教育実践～	金沢大学
2006年5月	子どもとメディア	奈良教育大学

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望、魅力的な研究会テーマの提案、研究会での企画などをお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

（研究会全般、研究会Web Page、研究会発表の申込、変更等、原稿執筆）に関するお問い合わせ

研究会幹事 jset-branch@nime.ac.jp

（年間購読、原稿提出）に関するお問い合わせ

学会本部事務局 office@jset.gr.jp

研究会の報告

本研究会のテーマ「e-Learningと情報教育」に関連した10件の発表と、公開討論会「教科情報3年目の現状 - “町のパソコン教室以下” 批判への現場からの回答 -」が行われました。大学および高校の先生方や学生、企業の方を含め、53名の参加をいただきました。eラーニングに関する発表は2件。企業内教育と現職教員向けの活用事例とコース開発に関して報告されました。情報教育の発表は8件。うち6件が高等学校の、(1)普通教科「情報」の指導法、(2)専門教科「情報」の指導法、(3)平成17年度普通教科「情報」教科書の分析でした。高等教育機関を対象としては、(1)情報リテラシー教育の実践、(2)高校普通教科「情報」に対する高校生と大学生との理解度比較の報告がありました。

公開討論会は、教科「情報」に関し、都道府県の枠を超えて実践報告を行い、多様な立場の参加者を交えて討論を行いました。東京都/埼玉県/神奈川県立高校で教科情報担当の現職の先生7名より、普通科/総合科/情報科での取組に関する報告をいただきました。先生方には、情報教育のベテランのみならず、平成15年度以降に採用され、教科「情報」を主免許とする方もおられました。ディスカッションでは、平成15年度の実施開始からの3カ年を振り替り、ポスト2005年に向けた教科「情報」の健全な展開に向けて意見交換を行いました。ご協力を賜りました、東京都高等学校情報教育研究会、神奈川県高等学校教科研究会情報教育部会、埼玉県高等学校情報教育研究会の諸組織様には、紙面を借りて改めて御礼申し上げます。なお、毎日新聞Web版に報告されています。(http://www.mainichi-msn.co.jp/shakai/photojournal/archive/news/2005/07/27/20050727k0000e040043000c.html)



7月研究会開催担当：香山瑞恵（専修大学ネットワーク情報学部）

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年5冊、各研究会平均13件程度（平成16年度実績）の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は送料込みで3,500円です（当日売りは割高になります）。詳しくは、学会事務局までお問い合わせください。

【学会事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX：03-5740-9505 E-mail：office@jset.gr.jp

日本教育工学会 第 21 回通常総会議事録

日 時：平成 17 年 6 月 18 日（土）12：00～13：00

会 場：東京工業大学 西 9 号館 デジタル多目的ホール（東京都目黒区大岡山 2-12-1）

出席者：清水康敬会長他 316 名（当日出席者 76 名、委任状提出者 240 名）

議事に先立ち、定款第 47 条により、正会員（現在数 1,767 名）の 10 分の 1（177 名）以上の出席者であることから、総会が成立していることを確認した。

議事：

1．第 1 号議案 2004 年度事業報告および収支決算

日本教育工学会ニューズレターNo.137 の 2, 3 ページに掲載されている議案説明書に基づき、前迫孝憲総務担当理事より 2004 年度事業並びに 2004 年度収支決算について報告があった。また、清水康敬会長より学会創立 20 周年記念事業及びクレジットカード支払いのシステム開発等に関して補足説明があった。

次に水越敏行監事より監査結果の報告があった。審議の結果、異議なく、これを承認した。

2．第 2 号議案 2005 年度事業計画案および収支予算案

日本教育工学会ニューズレターNo.137 の 4, 5 ページに掲載されている議案説明書に基づき、前迫孝憲総務担当理事より 2005 年度事業計画案と 2005 年度予算案について提案があり、審議の結果、異議なく、これを承認した。なお、清水康敬会長より、学会の情報化対応システム等について補足説明があった。

3．第 3 号議案 会長，理事，監事，評議員の選任

日本教育工学会ニューズレターNo.137 の 6 ページに掲載されている議案説明書に基づき、澤本和子選挙管理委員長より 2005 年度役員改選の選挙結果について報告がなされ、審議の結果、原案通り、これを承認した。

4．第 4 号議案 定款の改定

日本教育工学会ニューズレターNo.137 の 6 ページに掲載されている議案説明書に基づき、清水康敬会長より、事務局移転の経過と趣旨の説明があり、定款の改定が提案された。審議の結果、原案通り、これを承認した。

5．その他

清水康敬会長より、クレジットカードによる支払い方法について、提示画面によるプレゼンテーションがあった。

以上

学会担当委員名簿

編集委員会					
編集長	清水 康敬	(メディア教育開発センター)			
副編集長	矢野 米雄	(徳島大学)			
担当理事	池田 満	(北陸先端科学技術大学院大学)	植野 真臣	(長岡技術科学大学)	
担当理事	向後 千春	(早稲田大学)	山内 祐平	(東京大学)	
委員	赤倉 貴子	(東京理科大学)	伊藤 紘二	(東京理科大学)	
	大島 純	(静岡大学)	大谷 尚	(名古屋大学)	
	岸 学	(東京学芸大学)	木原 俊行	(大阪市立大学)	
	近藤 勲	(岡山大学)	佐々木 整	(拓殖大学)	
	澤本 和子	(日本女子大学)	正司 和彦	(兵庫教育大学)	
	菅井 勝雄	(大阪大学)	鈴木 克明	(岩手県立大学)	
	永岡 慶三	(早稲田大学)	中山 実	(東京工業大学)	
	堀田 龍也	(静岡大学)	松居 辰則	(早稲田大学)	
	美馬のゆり	(日本科学未来館)	室田 真男	(東京工業大学)	
	研究会委員会				
委員長	黒上 晴夫	(関西大学)			
副委員長	近藤 勲	(岡山大学)	永岡 慶三	(早稲田大学)	
幹事	稲垣 忠	(東北学院大学)	赤倉 貴子	(東京理科大学)	
委員	小柳和喜雄	(奈良教育大学)	香山 瑞恵	(専修大学)	
	西端 律子	(大阪大学)	藤村 裕一	(鳴門教育大学)	
	浅井 和行	(京都教育大学)	須曾野仁志	(三重大学)	
	田口 真奈	(メディア教育開発センター)	武田 亘明	(北星学園大学短期大学部)	
	中川 一史	(金沢大学)	藤谷 哲	(目白大学・日本科学未来館)	
	堀田 博史	(園田学園女子大学)	益子 典文	(岐阜大学)	
	寺嶋 浩介	(長崎大学)	西田 英樹	(鳥取大学)	
	広報委員会				
	編集長	清水 康敬	(メディア教育開発センター)		
	委員長	堀田 龍也	(静岡大学情報学部)		
担当副会長	山西 潤一	(富山大学教育学部)			
委員	石塚 丈晴	(静岡大学工学部)	高橋 純	(富山大学教育学部)	

企画委員会					
委員長	南部 昌敏	(上越教育大学)			
副委員長	美馬のゆり	(日本科学未来館)	村川 雅弘	(鳴門教育大学)	
担当副会長	永野 和男	(聖心女子大学)			
委員	赤倉 貴子	(東京理科大学)	池尻 稔	(NTT レゾナント(株))	
	伊藤 剛和	(奈良教育大学)	井上 久祥	(上越教育大学)	
	香山 瑞恵	(専修大学)	小林 正幸	(日本電気(株))	
	鈴木 栄幸	(茨城大学)	高橋 純	(富山大学)	
	永田 智子	(兵庫教育大学)	野中 陽一	(和歌山大学)	
	長谷川元洋	(金城学院大学)	本間 明信	(宮城教育大学)	
	室田 真男	(東京工業大学)			
大会企画委員会					
委員長	鈴木 克明	(岩手県立大学)			
副委員長	伊藤 紘二	(東京理科大学)	木原 俊行	(大阪市立大学)	
委員	赤倉 貴子	(東京理科大学)	池田 満	(北陸先端科学技術大学院大学)	
	大久保 昇	((株)内田洋行)	奥田 聡	(富士通(株))	
	金西 計英	(徳島大学)	久保田賢一	(関西大学)	
	小泉 力一	(尚美学園大学)	小林 正幸	(日本電気(株))	
	園屋 高志	(鹿児島大学)	高畑 大	(東京書籍(株))	
	中川 一史	(金沢大学)	中山 実	(東京工業大学)	
	野中 陽一	(和歌山大学)	林 敏浩	(香川大学)	
	堀田 龍也	(静岡大学)	前迫 孝憲	(大阪大学)	
	松居 辰則	(早稲田大学)	室田 真男	(東京工業大学)	
	矢野 米雄	(徳島大学)	山内 祐平	(東京大学)	
	吉崎 静夫	(日本女子大学)	吉田 哲平	((株)学習研究社)	
	余田 義彦	(同志社女子大学)	米澤 宣義	(工学院大学)	
	顕彰委員会				
	委員長	三宮真智子	(鳴門教育大学)		
	選挙管理委員会				
委員長	大谷 尚	(名古屋大学)			

第 10 期第 17 回/第 11 期第 1 回 理事会・評議員会(合同)議事録

日時：平成 17 年 6 月 18 日(土) 13:00～14:00

場所：東京工業大学ケータリング食堂

出席：

(理事)赤堀侃司、生田孝至、伊藤紘二、植野真臣、木原俊行、黒上晴夫、向後千春、近藤勲、澤本和子、清水康敬、永野和男、中山実、南部昌敏、野島栄一郎、堀田龍也、美馬のゆり、村川雅弘、矢野米雄、山内祐平、山西潤一、坂元昂

(評議員)大久保昇、下田昌嗣、園屋高志、前迫孝憲、松居辰則、村瀬康一郎、室田真男、横山節雄、吉崎静夫

(監事)水越敏行

(事務局)小林常一

第 10 期第 17 回理事会・評議員会

1. 第 10 期第 16 回理事会議事録を承認した。
2. 会員の移動について承認した。
 - (1) 新入会員 35 名 (正会員 11 名、学生会員 24 名)
 - (2) 退会会員 15 名 (正会員 10 名、准会員 2 名、学生会員 2 名、維持会員 1 団体)
 - (3) 種別変更 10 名 (正会員へ 6 名、准会員へ 1 名、学生会員へ 3 名)
3. 理事、委員会委員の旅費について
昨年度収支決算の監査をいただいた水越監事と今栄監事から、理事、委員会委員への旅費支給額を総額の 6 割を改め、全額支給したらどうかとの提案があった旨の説明が清水会長からあり、審議の結果これを承認し、次期理事会に申し送ることにした。
4. 新事務局体制について
清水会長より今後の体制について説明された。
5. 第 10 期の総括について
清水会長から総括の報告があった。
6. その他
清水会長から退任の挨拶があった。

第 11 期第 1 回 理事会・評議員会

- 赤堀会長から就任の挨拶があった。
1. 理事の役割分担について
会長から役割分担が提案され、承認された。
 2. 学会活動の活性化について
各種委員会での引継状況について報告を受けた。
 3. その他
 - ・ 後援名義使用の承諾について承認した。
先進 IT 活用教育シンポジウム in 京都(財団法人コンピュータ教育開発センター)
 - ・ 協賛名義使用の承諾について承認した。
 - ・ 第 3 回「教育におけるワイヤレスモバイル技術」に関する国際会議(IEEE Computer Society)
 - ・ 日本行動計量学会第 33 回大会(日本行動計量学会)
 - ・ 下記について会長が検討する。
 - ・ 平成 18 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補の推薦について(文部科学省研究振興局)
 - ・ 第 2 回(平成 17 年度)日本学術振興会賞受賞候補の推薦について(独立行政法人日本学術振興会)

以上

日本教育工学会第 11 期第 2 回理事会議事録

日 時：平成 17 年 7 月 16 日（土）15:00～17:00

場 所：キャンパスイノベーションセンター805 会議室

出 席：赤堀侃司会長、永野和男副会長、矢野米雄副会長、伊藤紘二、植野真臣、
木原俊行、近藤勲、澤本和子、三宮真智子、清水康敬、鈴木克明、中山実、
永岡慶三、堀田龍也、村川雅弘、新井健一、生田孝至、黒上晴夫、
野嶋栄一郎、山内祐平

- 1．第 21 回通常総会議事録、第 11 期第 1 回理事会・評議員会議事録を資料のとおり承認した。
- 2．会員の移動について承認した。
 - (1) 新入会員 32 名(正会員 13 名、学生会員 17 名、准会員 2 名)
 - (2) 退会会員 2 名(正会員 2 名)
 - (3) 種別変更 3 名(正会員へ 2 名、学生会員へ 1 名)
- 3．各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会 植野委員より、資料 4 に基づき論文誌の編集状況の説明があった。また、清水編集委員長より、副編集長の指名、編集委員の交替が報告され、承認した。
 - (2) 研究会委員会 黒上委員より 7 月 23 日の委員会で年間スケジュールを決定する予定が報告された。
 - (3) 企画委員会 村川委員より、6 月のシンポジウム、夏の合宿、秋の産学セミナーについて報告があった。また、企画委員の交替について報告があり、承認した。
 - (4) 大会企画委員会 鈴木委員長より、本年度の大会準備の進捗状況について報告があった。また、2006 年度大会の開催場所を次回の大会企画委員会で決定することが報告された。大会実行委員長の矢野副会長から、開催大学の準備状況が報告された。
 - (5) 顕彰委員会 三宮委員長から、研究奨励賞、論文賞の報告があり、これを承認した。
 - (6) 将来構想委員会 赤堀会長から、韓国 KSET の創立 20 周年記念大会に、本会から山西副会長と共に出席することが報告された。
 - (7) 会員拡大委員会 会員拡大の方針について意見を出し合った。
 - (8) 広報委員会 堀田委員長から、ニューズレター委員会とホームページ委員会の統合により山西副会長が委員として加わる報告があり、これを承認した。ニューズレター(No.139)の台割について、担当を確認した。
- 4．その他
 - (1) 各業務の事務局分担体制について確認した。
 - (2) 協賛・後援名義使用 5 件を承諾した。
 - ・ 「第 21 回ファジィシステムシンポジウムーしんせんシステムへ」(日本知能情報ファジィ学会)
 - ・ シンポジウム「ケータイ・カーナビの利用性と人間工学」(日本人間工学会モバイル人間工学会)
 - ・ 情報教育シンポジウム(情報処理学会コンピュータと教育研究会)
 - ・ 日本テスト学会第 3 回大会(日本テスト学会)
 - ・ 国際情報オリンピックの日本の参加について(情報オリンピック日本委員会)
 - (3) 今後の理事会の日程について
 - (4) 第 11 期第 3 回理事会：平成 17 年 9 月 17 日(土) 15:00～17:00
 - (5) 第 11 期第 4 回理事会：平成 17 年 11 月 26 日(土) 15:00～17:00

以上

■ 正 会 員 13名

清水 次朗(福岡工業大学)
 佐藤 宏一(北海道工業大学)
 伊東 重徳(大阪医科大学)
 藤岡 良一
 寺川 佳代子(常磐会学園大学)
 吉野 和美(富士市立元吉原小学校)
 浅尾 彰俊
 出口 幸子(近畿大学)
 三代沢 正
 菅 建二(熊本市立健軍東小学校)
 スコット ダグラス
 (早稲田大学人間科学学術院)

中植 正剛(神戸親和女子大学)
 尾崎 史郎(メディア教育開発センター)

■ 准 会 員 2名

小暮 敦子(三鷹市立第一小学校)
 小倉 恭彦(岡山市立御津中学校)

■ 学 生 会 員 17名

元永 成美(関西大学大学院)
 北村 智(東京大学大学院)
 木内 康祐(広島国際大学)

岡田 悟(信州大学大学院)
 三枝 和博(上越教育大学)
 名嘉原 安志(鳴門教育大学大学院)
 板宮 朋基(慶應義塾大学大学院)
 中村 由佳里(滋賀大学大学院)
 佐々木 典彰(東北大学大学院)
 久保田 文彦(信州大学)
 中川 香澄(東京理科大学大学院)
 岡田 義雄(姫路獨協大学大学院)
 大橋 裕太郎(慶應義塾大学大学院)
 伊藤 貴昭(慶應義塾大学大学院)
 吉弘 勝己(広島国際大学)
 花岡 竜平(広島国際大学)
 衣笠 裕(香川大学大学院)

学会日誌

2005年

- 9月17日(土) 理事会・編集委員会(CIC)
- 9月23日(金)～25日(日) 第21回全国大会(徳島大学)
- 10月15日(土)～16日(日) 秋の合宿研究会(和歌山県立情報交流センター)
- 11月19日(土) 研究会「ICT活用と教育評価」(鳥取大学)
- 11月25日(金) 秋の産学協同セミナー(東京を予定)
- 11月26日(土) 理事会・編集委員会(CIC)

2006年

- 1月28日(土) 理事会・編集委員会(CIC)
- 1月28日(土) 研究会「学習理論と学習環境の拡張」(大阪大学)
- 1月または2月 冬の合宿研究会(仙台を予定)
- 3月11日(土) 研究会「教育の情報化～ポスト2005年の教室～」(金沢大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

- 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)
- ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会(kouhou@jset.gr.jp)
- その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 編集委員長:堀田龍也, 委員:山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純
 静岡大学情報学部堀田研究室 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニューズレター No.139

2005年9月13日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055